

ASTでの治療介入変更に伴う菌血症患者の予後の調査

1. 研究の対象

2021年4月～2023年3月の間に当院で血液培養陽性となり、入院にて抗菌治療が必要と判断された患者

2. 研究目的・方法

【目的】

菌血症は死亡率15-30%¹⁻⁵⁾とされる予後不良な疾患である。そのため、適切な処置と抗菌治療が必要となる。近年、抗菌薬の適正使用を目的に、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）での介入が推奨され、当院でも2017年度より発足されている。菌血症患者への介入は主に薬剤師が菌種や感受性から初期治療の適切性を評価するだけであったが、2022年度よりチームとして治療が安定するまでの抗菌治療だけでなく、適切な処置や検査推奨などの介入を始めた。これに伴う患者の予後の変化について調査する。

【方法】

研究：後ろ向きコホート研究

主要評価項目：2021年度と2022年度の7日および28日死亡患者の比較

副次的評価項目：ASTと非ASTでの年度別の死亡患者の比較

【研究期間】

研究機関の長の許可日から2024年12月31日（利用開始予定日：2023年12月）

3. 研究に用いる情報の種類

情報：診療情報を用いた以下の情報内容の収集

性別、年齢、体重、患者の併存疾患（Charlson index score）、血液培養の内容と採取時のバイタル（Pitt bacteremia score）、菌種、使用抗菌薬の内容、ASTの関与の有無、生存情報 等

4. 利用する者の範囲

収集した情報は当院薬剤部でのみ利用し、情報については個人情報特定されないように情報管理責任者（研究責任者）が厳重に保管します。

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代諾者の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。申し出をいただいた時点で、既に学会や論文として発表されている場合は取り消しができないこともあります。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：山梨県立中央病院 薬剤部 遠藤 愛樹

〒400-8506 山梨県甲府市富士見一丁目1番1号 TEL：055-253-7111（代表）